

日本気象学会昭和39年度秋季大会

(プログラムその他詳細は本文311頁以下を参照)

1. 期 日: 11月18日(水), 19日(木), 20日(金)
2. 場 所: 福岡市天神町天神ビル 11階ホール
3. 行 事: 下記のとおり.

行 事	日	時
大会(研究発表)	11月18日(水)	9.00~12.00
〃	〃	13.00~17.00
大会(研究発表)	11月19日(木)	9.00~12.00
〃	〃	13.00~15.00
北京シンポジウム報告	〃	15.00~15.30
気象学会長期研究計画討論会*	〃	15.35~17.00
懇 親 会	〃	18.00~
大会(研究発表)	11月20日(金)	9.00~12.00
気象用レーダーの活用に関するシンポジウム	〃	13.00~17.00

大会委員長 荒川 秀 俊

* 前号で告示した総会を都合により取止め、その代りに「気象学会長期研究計画討論会」を行なうことになりました。長期研究計画に対しては長期研究計画委員会案のほかに、気象大学校、気象学会関西支部などから多くの意見が寄せられておりますが、これらに関する資料は当日、会場でお渡しいたします。なお長期研究計画に対して関心がおありの方は書面参加でも結構ですから、11月10日頃までに学会長期研究計画委員会宛に御意見をお寄せ下さい。

月例会のお知らせ

主題: 水気象

会期: 10月16日(金)13時より, 会場: 気象庁第1会議室

1. 正務 章(東管): 河川上流域の水収支の解析と問題点 (20分)
2. 瀬下慶長(東管): 北陸豪雪時における降水解析について (20分)

特別講演

和田英夫(気象庁長期予報): 水資源利用のための第3回水文予報セミナーに出席して (1時間)

主題: 気象災害

会期: 10月23日(金)9時30分より, 会場: 気象庁第2・3会議室

1. 荒井隆夫(気象庁): 気象災害の構造について (15分)
2. 蔵重清, 奥山志保子(気研): 山崩件数の要因分析 (15分)
3. 奥田禎, 奥山志保子(気研): 浸水家屋と全半壊家屋との関係からみた風水害と単純水害との違い (15分)
4. 柴田佑(気研): 気象刊行物からみた気象災害 (15分)
5. 毛利聰明, 渡辺義雄(東管): 中部日本の災害気候図について (25分)
6. 渡辺次雄(理科大学): 災害連関表の必要について (20分)
7. 高橋浩一郎(気研): 上陸による台風の衰弱(最大風速の推定と関連して) (20分)

8. 木村耕三(気象庁): 人災と天災について (15分)
9. 吉野正敏(教育大): ドイツ北海沿岸の風水害(スライド) (30分)

シンポジウム「大気汚染害について」

主題: 気象統計

会期: 10月30日(金)14時より, 会場: 気象庁第1会議室

1. 中川 清(東管): 中部日本の秋霖期の悪天について (20分)
2. 河村 武(東管): 不快指数の地域性 (20分)
3. 広瀬元孝(気研): 日本付近における月降水量の分布型について (20分)
4. 鈴木敏文(観測部): ソ連領域の日射気候区分について (30分)
5. 高橋浩一郎(気研): 自然環境の複雑な変動が経済に及ぼす影響 (20分)
6. 鈴木栄一(気研): 豪雨豪雪の判別予報における最小危険な判定基準と独立資料による検討 (20分)

主題: 大気汚染

会期: 11月27日13時より, 会場: 気象庁第1会議室

主題: 風のシンポジウム(土木学会など8学会との共催)

会期: 12月15日(火) 会場: 気象庁講堂

講演申込: 東京都千代田区大手町 気象庁観測部測器課 竹内清秀宛

(会期が予告よりも約1箇月おそくなりましたので締切期日は10月31日必着といたします。)